

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年 2月21日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1672100151		
法人名	医療法人社団 寿山会		
事業所名	グループホーム 福光ほほえみの家		
所在地	富山県南砺市法林寺 4 2 4		
自己評価作成日	平成29年1月26日	評価結果市町村受理日	平成30年2月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社
所在地	富山市荒町2番21号
訪問調査日	平成30年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「入居者1人ひとりの思いに寄り添い、心豊かな生活環境を目指します」「地域活動や文化活動を通じて、住民との交流に親しみ、楽しい生活を送っていただくようお手伝いします」の運営方針で交流を継続していきます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

クリニックと介護老人保健施設が併設されており、医療や看護の連携並びに管理栄養士による、一食毎にカロリー計算を施した、きめ細やかな食事が提供され、利用者の健康管理に十分配慮した対応が取られている。また、利用者全員が地域の老人会員に登録し、いろいろな行事に参加していることや地元高等学校並びに小学校とも行き来するなど地域との交流が図られている。
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

グループホーム 福光ほほえみの家

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念である「和顔愛語」を全職員が共有して実践し、地域住民との交流を大切にして、地域活動には積極的に参加している。理念と方針は見やすい所に掲示して実践している	法人の共有理念に基づいて、事業所の運営方針をつくり、リビングに掲示している。また、勉強会等において理念について職員間で話し合い共有と実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのさまざまな研修・会合に関わりながら、認知症の啓発に努めている。又、人材育成の貢献として、実習生の受け入れも積極的に行っている。又、小学校の総合学習を受け入れ交流している	利用者全員が地域の老人会員に登録し、自治会や老人会のいろいろな行事に参加している。また、地域の人達や利用者の家族を招いての夏祭りを開催しているほか、地元高等学校の実習や小学校の総合学習を受け入れるなど地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の75歳以上高齢者対象の「そくさい会」や敬老会に、[グループホーム]として参加する事で結果としてグループホームの役割や認知症などについての知識を提供している		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議に参加されるメンバーの方に「ほほえみ便り」をお渡しし、行事の目的や取組みを説明・報告し、意見を聞かせて頂いている。会議の資料として情報を提供している	自治会長、老人会長、民生委員、地域包括ケア課職員、家族がメンバーとなり2か月に一度開催している。会議では事業所の近況や外部評価などを報告して意見をもっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	南砺市地域包括支援センターの方々に運営推進会議に参加いただいて、運営についてご意見を頂いている。又、南砺市地域ケア会議の研修会にも参加して情報交換を行なっている	市の直轄機関である地域包括支援センターを窓口 to いろいろな相談をしている。また、市が主催する研修会にも参加し意見交換を行っている	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声をかけたり、一緒に付いて行く等、精神面や安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている	併設の介護老人保健施設と合同で勉強会を開催している。勉強会では身体拘束ゼロ委員会が講師となり、不適切な言葉がけをはじめ、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の介護は、法人の基本方針であり、法人や併設老健福光あおいの合同勉強会でも学び、マニュアル化と共に継続的に話し合い周知徹底と実践を行なっている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の勉強会で「成年後見人制度」について学んで知識を得たり、介護相談員を受け入れている主旨を全職員で共有している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、その内容について管理者や支援相談員が懇切丁寧に説明を行ない、それぞれの事柄について充分に理解して納得を頂いたうえで、契約を締結したり同意書に署名捺印をいただいている。又、いつでも相談に応じている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、利用者や全ての利用者の家族にも案内し、運営や要望について意見・要望を聞く場を設けています。又、意見箱を設置し随時ご意見や苦情を受け付けている	利用者からは日々の会話の中から、家族からは毎月の利用料支払時や面会時に意見・要望を聞いている。出されたものは申し送りノートに記載すると共に、ミーティング等で話し合い運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやカンファレンス等で意見を出し合い、必要な事項は併設の事務管理職と相談したり、管理運営委員会に提案し話し合う。法人全体では事務連絡会議に提案して意見を反映している	職員からの意見・提案は、ミーティングやカンファレンス及び半年に一回実施している管理者との個別面談において聞いている。有用なものは管理運営委員会等に提案し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、疲労やストレスの要因について気を配り、勤務時間中にも気分転換できる時間を確保したり、職員同士の人間関係を把握したりするよう努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を調査表等で把握している。法人内外の研修を受けさせている。資格取得に最大限の協力をしている。研修報告書を全職員が回覧し知識を共有できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	南砺市地域ケア会議や南砺市グループホーム連絡会に参加して情報交換等を行い、サービスの質の向上に努めている		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居事前には必ず家庭訪問や施設訪問をして、本人や家族の要望や家庭などの生活環境の把握に努めています。得た情報を入居時までに職員で共有し、信頼関係の構築の一助としている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者等は支援相談員と共に事前面談を行い本人評価を行って、入居審査会で他職種の職員から意見を頂いて、対応について検討している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側・支援される側という意識を持たず、お互いが協働しながら、和やかな生活ができるように、場面作りを声かけしている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には、こまめに報告・相談するようにしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	一人ひとりに寄り添った介護を目指しており、美容院なども出来るだけ行き付けのお店に行きついでに貰っている。地域に暮らす友人等が遊びに来られたりして継続的な交流ができるように働きかけている	利用者の馴染みの関係はフェースシートに記載し管理している。年賀状を出す支援や家族の協力も得ながら馴染みの美容院へ行く支援をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員も一緒にお茶・食事の時間をもったり、一緒に多くの会話を持つようにしたりして、関係が円滑になるような働きかけをしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他へ転出された利用者にも、これまでの生活の継続性が損なわれない様に、情報を提供しきめの細かな対応をしている。機会があれば様子を見に行っている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意志疎通が困難な方には、家族・関係者から情報を得るようにし、ケアプランの作成の参考にしている	入居時に家族に本人の生活歴などを記入してもらい、それをもとに、日々の暮らしの中で交わされる会話や、食事の進み具合などの様子に留意し、利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式でアセスメントして、家族に入居前後の生活背景等を記入してもらい、利用者が安心して生活できる支援を行なえるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「1日の様子」用紙に、個々の生活リズムを把握出来る様に記載し現状の把握に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回カンファレンスを行なっている。又、問題が発生した時点でも直ぐにカンファレンスを行なって対応している。法人の他職種のアドバイスを貰って反映させている。家族には面会時等に近況報告をして、意見や希望を聞き、取り入れている	本人や家族の思いを取り入れ、また併設の老人保健施設の専門職からのアドバイスや職員の提案などをカンファレンスで話し合っ、利用者の現状に沿った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態の変化や職員の気づき等は、それぞれのケア記録に記載し、職員間の情報を共有している。個別の記録を読み込んでケアプランの見直しの参考にし、評価を実施している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、予定日以外の通院や送迎、及び必要な支援には柔軟に対応している。定期受診等は希望にそって臨機応変に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治振興会長・自治会長・老人会長や民生委員の方には、運営推進会議に参加頂き、南砺市地域包括支援センターの方にも参加いただいてご意見をもらったり、センター主催のグループホーム連絡会にも参加して、協力関係を築いている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の福光あおいクリニックを主体にして、月2回の受診で健康管理をしており、急変時には往診もしてもらっている。入居後も主治医の変更を勧めたりせず、本人の今までのかかりつけ医や希望の病院へ受診している。受診の付き添いに行き、普段の様子や変化を伝えるようにしている	併設のクリニックをかかりつけ医としている利用者は、リハビリがてら職員と一緒に受診に行っている。それ以外への受診には家族が付き添い、診察結果などの医療面の情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の老人保健施設との契約で毎日看護師が施設を訪問して、体調やささいな変化等を診てもらって早期に発見し、手当て出来るよう連携を行っている。又、健康管理の相談相手になってもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には本人の支援方法について、家族と相談して介護サマリーを提供して近況を伝えています。退院前には支援相談員と共に情報交換し、かかりつけ医とも協力して受け入れ態勢を整えている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえつつ、運営の法人指針を説明し、ターミナルケアを行なわない事を事前に承諾願っている。重度化の場合も事前に家族と話し合い承諾を得て、医師と相談してしかるべき医療機関に転送している	法人として、利用者の暮らしを支援することとし、重度化や看取りの対応は行わないことを入居時に家族などに説明している。事業所での暮らしが難しくなったときは、法人内の他の施設も含めて、次の受け入れ先への転居支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、法人の勉強会や独自の勉強会で対応や実践訓練を行なっている。職員全員が消防署主催の普通救命救急講習会を受講・再受講して実践力を身に付けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、火災避難訓練を通常体制と夜間体制で年2回実施している。その訓練には地元自治会から2～4名の参加を得て避難誘導などの協力を得ている	火災に備えた避難訓練を地域の人達の参加を得て実施している。また、自治会からのアドバイスを受け、地域の消防団に事業所内部の配置を見てもらっている。	地震や土砂災害に対する避難マニュアルは作成されているが、今後は、そのマニュアルをもとに、地震や土砂災害に備えた訓練を実施することが期待される。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者には年長者として敬意を払い、日頃の対応においても本人の気持ちを傷つけないよう支援し、安心して生活できる様言葉遣いに気を付けている。利用者の前でもプライバシーにかかわる言動を慎む様にし、職員間で日常的に確認と改善に努めている	職員は、利用者に関わる時間を多く持つように心がけ、傍らに寄り添い、なるべく敬語で利用者に接し、自然に利用者を敬うような雰囲気づくりに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に声がけして意向を尊重し、意思表示が出来ない場合には表情や反応を見極めながら、複数の選択肢を提案して、出来るだけ自分で決められる様に働きかけたり、筆談し曖昧な伝わり方にならないように気を付けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は第一優先は利用者である事を常に念頭に置いて業務を行い、利用者一人ひとりの体調などに配慮しながら利用者のペースにそって生活できる様にしている。又、日頃から化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面介助や衣類の選択などさりげなくカバーし、残存能力に応じた支援をしている。理美容は馴染みの店に家族同行で行かれる事もあるが、併設老健で訪問理容サービスを利用している方もいる		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは、併設の老人保健施設の管理栄養士と相談しながら作成している。お寿司の日や外食（弁当等）も採り入れて変化をもたせている。食事の準備や後片付けなどで共同作業をして個々の力を発揮してもらっている	野菜をちぎったり、ふきんを畳んでもらうなど、一人ひとりのできることを手伝ってもらっている。また、鶏肉に片栗粉をまぶした治部煮や、大根おろしを加えたみぞれ汁など、目先を変えた献立を工夫している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通して必要な食事や水分がとれるよう支援し、個別に管理記録を記入し共有している。管理栄養士のアドバイスで一人ひとりの栄養状態や食事形態を考えながら支援している。又、家族からの差し入れをお出しするようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に個々に応じた声かけ、口腔ケアを実施し、入れ歯の管理を支援している。口腔内の不都合があれば併設クリニックを受診して対応している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で、一人ひとりのリズムに合わせてさりげなく付き添い・見守りをしている。パット類は時間帯や個々に合わせてその都度検討し対応している。勉強会等でより良い物を検討したり、家族からの持ち込みの物を使用している	パット類は、肌に優しい物を選んだり、たとえ失敗があっても大丈夫という雰囲気ケアし、排泄に関する心身のダメージを軽減し、排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の軽体操や水分補給を行なうと共に、投薬によるコントロールや管理栄養士と献立を検討するなど、自然排便を促すための工夫（牛乳・ヨーグルト等の提供）をしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週に2回実施している。順番を決めず、体調によっては足浴やシャワーを勧めたり、清拭だけの事もある。本人の負担とならないよう支援している	午前中にすっきりしたい、お昼ご飯を食べてから入りたいなど、週2回の入浴日の、その日の気分に合わせて柔軟に支援し、ゆず湯などで入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のペースで気持ち良く眠りにつけるよう、日中の活動に配慮しながら休息を採り入れている。どうしても眠れない利用者には医師と相談して眠剤で調整し安眠につなげている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後に薬剤師より個々の薬剤について説明を受けている。又、薬剤情報によりケース毎に整理し、職員が内容を把握し、申し送りしている。副作用については継続的に薬剤師の訪問を受けて状態の把握と対応を一緒にこなっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月季節に合ったお楽しみ会や作業レクリエーションでの作品展示、生花や習字教室・貼り絵・パズルなど日々変化をもたせるよう工夫している。又、個々の得意分野で一人ひとりに力を発揮し、軽作業でできそうな事はしてもらっている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋外での散歩や日光浴など天候を見ながら楽しんでもらっている。地区住民の理解と協力を得て、公民館や老人クラブの行事に積極的に参加している。小学校行事にも招待されて参加している	医王山のふもとの緑豊かな環境のもと、庭には桜や椿などが植えられ、ベンチに腰掛けて、開放的な気分を味わっている。また、地域や小学校の行事に出向いたり、井口村の椿、福野の菊まつりなど、四季折々ドライブに出かけ楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の承諾を得て、少額のお小遣いを預かり、買物時に個々の財布から支払いできるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節に合わせた挨拶状や絵手紙作りを活動に採り入れて郵送したりしている。事業所内に公衆電話を設置し、自由に掛ける事が出来る様にし、出来ない利用者には個々に支援している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を生けてもらったり、レクリエーション活動の作品を展示したりして穏やかで温かい雰囲気作りを心がけている。テレビの音もコードレススピーカーシステムを採り入れ、大音量騒音に配慮している。室温・湿度・採光などにも配慮している	リビングには、節分の鬼の切り絵、桃の節句の壁掛けなどを飾っている。また、キッチンからは、天ぷらを揚げる音などが聞こえ、季節感や生活感を採り入れた共用空間をつくっている。また、リビングはもとより、トイレや脱衣室などの温度管理などに留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や居間にソファ椅子を配置し、何時でも利用者同士が語り合ったり出来る空間があり、一人にもなれる空間にもなる		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使い慣れた家具類や筆筒、思い出のある品々やアルバム等の持込をお願いしている。本人や家族と相談しながら、その人らしい居室になるようにしている	居室は、家族の協力のもと、お花や利用者の地元のお祭りを報じた新聞記事などを飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・廊下・トイレ・浴室等の出入口には手すりを設置してあり、利用者は安全に生活しやすい様にしてある。又、台数に制限はあるが車椅子対応が可能な空間でもある。利用者の身体状況に合わせ、物の配置に配慮している		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 GH福光ほほえみの家
作成日 平成 30年 2月 27日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		災害対策で、火災に関してはマニュアルを作成し、訓練も行っているが、地震・土砂災害時のマニュアルは作成したが訓練は行っていない	地震・土砂災害（急傾斜地崩壊）時を想定した避難訓練を実施する	疑似体験により問題提起	1 年
2					
3					
4					
5					

注1）項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2）項目数が足りない場合は、行を追加すること。